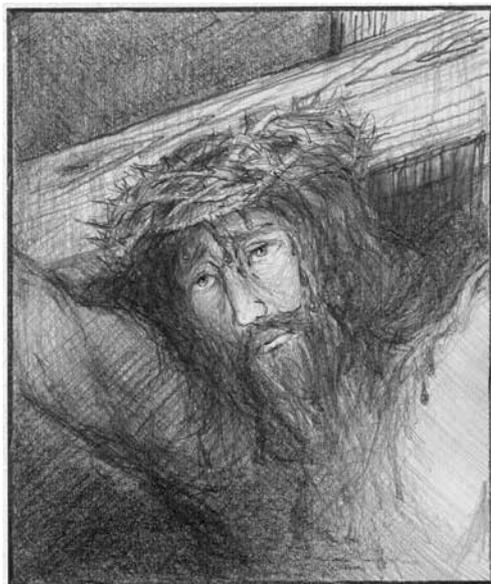




カトリック町田教会  
町田市の中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

いかにずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



## キリストの「味」

主任司祭 林 正人

公開ミサが中止になってい  
たおよそ四カ月の間、毎朝一  
人で非公開ミサを捧げていま  
した。当然、ミサの中でイエ  
ス様の尊い体と血を拝領する  
訳ですが、主任司祭として、  
自分の戴くご聖体が、町田教  
会所属信徒全員の心を満たす  
霊的な糧となるよう祈ってい  
ました。不安の中で緊急事態  
宣言中の日々を過ごしていた  
であろう皆様の許に、恩寵が  
届けられていたなら幸いです。

ただ、司祭としての務めは  
ともかく、私も弱い一人の人  
間、コロナ禍の中、ハッキリ  
言ってビクビクしながら毎日  
の生活を送っていました(基  
本的に怖がりなもので...)。  
そんな折、コロナに感染した  
方は「味覚、嗅覚が無くな  
る」との情報が出始め、医学  
的根拠は無いものの「重要な  
バロメーターになる」と、あ  
る時から言われ出しました。  
よね。コロナ治療を受けたあ

る芸能人の方は、「味覚が全  
く無くなり、ご飯を食べても  
ゴムを噛んでいるようだつ  
た」と、インタビュで語っ  
ていました。

これを聞いて以来、特に飲  
食物の「味」がちゃんとす  
るか、毎日気をつけて確かめ  
るようになりました。そし  
て、毎日戴く「食べ物」「飲  
み物」と言えば、そう、ご聖  
体です！ 拝領するご聖体の  
「味がする」ことを確認し、  
「ああ、生きています。生かさ  
れている」と、改めて神様に  
感謝していました。

私たちカトリックの最大の  
恵みの元が「飲食物」である  
こと。抽象的ではなく、具体  
的に「味わえる」ものである  
ことの有難さをつくづく実感  
した次第です。

そういえば、以前にいた教  
会で初聖体の式を行った時の  
こと。初めてイエス様の体を  
戴いた女の子が、ミサ後、私  
の処に来て、「赤ちゃんの味  
がしたよ！」と報告してくれ  
たことがあります。赤ちゃん  
が食べるウエハースのような  
味がしたのか。はたまた、赤  
ちゃんに特有の、お母さん  
のお乳のような香りに包まれ  
たのか。何れにせよ、この子  
は「イエス様を味わった」、そ  
して「イエス様に包まれた」  
のです。彼女が受けた恵みの

大きさに感銘を受けると同時  
に、ご聖体を「食べ慣れてし  
まっている」自分が久しく忘  
れていたご聖体の「味」。味  
覚を覚える程に噛みしめて実  
感する、「イエス様とひとつ  
になる」途方もない有難さを  
思い起こす出来事でした。

「戴く『キリストの味』を  
大切にせねば」と発心して幾  
年か。再び「慣習」となりか  
けていた時に起こった今回の  
コロナ禍。こんなことが無い  
なら、その方が良かったこと  
は言うまでもありませんが、  
怖れからすがりついたイエス  
様より染み出てきた「味」に、  
「私と共に生きてくださるキ  
リスト」に、「かたじけなさ

## ミサ再開に向けた取り組み

運営委員 西野 武

今年、施設管理委員会の委  
員長に任命され、運営委員の  
一員になりました西野です。  
以後お見知りおきをお願いし  
ます。生まれ育ちは新潟市  
で、2016年10月に町田教  
会に転入して4年目になりま  
す。これまでは施設管理委員  
会の担当、聖体奉仕等、比較  
的フリーな立場でしたが、今  
年から運営委員となりしっか  
りやっていかなければと思っ  
ていましたが、新型コロナウイルス  
の影響で教会に来ることも出来  
ず、教会に行くことが当たり

になみだこぼるる」心境でし  
た。  
この原稿を書いている時点、  
町田教会では、ブロックで分  
け、人数制限したミサが、丁  
度一巡しました。久方ぶりに  
具体的な御体を噛みしめた  
方々がおられます。しかし、  
未だその恵みに与っておられ  
ない方々も数多おられます。  
非常に心苦しく思っておりま  
す。しかし、このコロナ禍の  
状況も、いざれ快方に向かう  
でしょう。その時、拝領する  
御体を、「味がするまで」噛  
みしめてみてください。その  
味こそが、私たちと共にい  
てくださる、イエス・キリスト  
です。

前であつた私にとつてはかつ  
てない経験となりました。こ  
の間、施設管理委員会の活動  
も止まり、私として唯一対応  
してきましたミサ再開への取  
り組みについてお話をさせて  
いただきます。

緊急事態宣言解除前の5月  
31日(日)に、林神父、運営  
委員会メンバーがひっそりし  
ている教会にミサ再開の準備  
のため2ヵ月半ぶりに集まり  
ました。当初はミサ再開日程  
が決まっておらず、感染対策  
を踏まえて慎重に準備を進め

ていこうと考えていました。その後、菊地大司教から6月21日のミサから順次再開する方針が伝えられたため、当初予定よりかなり前倒しでやる必要がでてきました。感染対策を踏まえた座席配置及び聖堂内の表示、人数制限を踏まえた地域ブロック分け、消毒液の選定準備や消毒作業と多岐にわたる準備を、限られた時間の中で知恵を出し合いながら進めました。ミサ再開の1週間前の6月14日には地区ブロックの代表の方への説明会をおこない、3ヵ月半ぶりの6月20日にミサ再開をなんとか迎えることが出来ました。その後、6月20日〜7月12日のミサ(12回)を通じて

特集 手さぐりのうちに

土曜奉仕係と有志グループ

廣田 道子

神様の御計画が見え難く、なつてから約半年が過ぎようとしていきます。灰の水曜日を最後に、東京教区では公開ミサが自粛され、町田教会では地域ブロックや各委員会等を通じて、その連絡が入りました。しかし、町田教会の土曜ミサを「いつもの教会」「いつものミサ」としながらも、教会からの伝達が届いていない

285名の方がミサに与りました。想定の人数を超えることなく、スムーズにミサ再開がおこなえたのは、教会に來られた方並びにご自宅にとどまりお祈りしていただいているより多くの町田教会の方々のご協力によるものだと認識しました。ウィズコロナ時代のなかで、現状を踏まえて前向きな取り組みを運営委員会の皆さんと進めていきたいと思えました。

方も多くいることが判明しました。当初は社会的にも教会的にも混乱を極める中、教会ホームページの更新も遅く、不安に駆られる方が多く見受けられました。そこで、個人的に連絡先を存じ上げていた土曜ミサを「いつものミサ」としている方々にお知らせを始め、三月からは有志のLINEグループを立ち上げました。現在のグループ登録者は四十名を超え、百名以上の方に教会からのお知らせをお

「今こそ心から わたしに立ち帰れ」 (ヨエル2:12)

裁きのときではなく わたしたちの判断のとき!

（生き方を あらためるとき）

エゴもごまかす 固定観念

パンデミック (世界的大流行)

反面が 剥がれ落ちる

ステレオタイプ

皆が同じ舟に乗っている

ひっそり 行われる

祈りと奉仕

武器

十字架

わたしたちは あがなわれた (救われた)

イエスを招き ゆたぬよう 決して 沈まない

いのちの船

希望の灯を再びともそう (イザヤ42:3)

「神がわたしたちのことを 心に掛けてくださるからです」 (一ペトロ5:7参照)

神はいつも そこにおられ 耳を傾けて くださる

勝利に 導く

わたしたちもあの弟子たちのように一人で 勝手に進むことはできず、皆が 一つになってはじめて前進できることを 知ったのです。

御父を信頼してぐっすり 眠っておられる

福音の中でイエスが眠っているのは この箇所だけ(マテ9:33-34)

まだ 信じないのか?

先生、わたしたちが 溺れ死んでも かまわないのですか?

教皇フランシスコ

信じるだけでなく 神に向かってより頼むこと

祈り

神の元に 連れ戻す

（マタイ 28:5） 主よ、もう一度「恐れることはない」とおっしゃってください。--- ペトロとともに「悪い煩いを 何もかも神にお任せします。」

嵐の海の星であり 民の救いである マリアの取り次ぎのもとに 主にゆだねたい

カトリック中央協議会

届けしています。

また、顔と顔を合わせるこ  
とが厳しい中でも、ご家族の  
ご病気や帰天の時には祈り合  
い、信仰の助けとなる情報等  
を日々交換し合うことで、新  
しい絆も生まれています。

これまで、土曜ミサを「い  
つものミサ」とされていた  
方々のご奉仕の実績と有志の  
LINEグループが、運営委員  
会の目にも留り、七月十八日  
の土曜ミサから限定付ミサ期  
間、五名の「土曜奉仕係」が  
任命され、神父様や運営委員  
さんと共に、土曜ミサ運営の  
ご奉仕をさせていただくこと  
になりました。

これからも皆様のお祈りと  
ご協力に支えられ、酸っぱい  
レモンを甘いレモネードに変  
えられるようご奉仕に務め、  
全ての皆様と心置きなく笑顔  
で再開できる日まで、町田教  
会を底辺から支えて参ります。

**コミュニケーションの大切さ**

インターナショナルグループ

**辻 成己**

約5ヶ月間以上、お会いで  
きていない仲間達が沢山いて  
また、日本国内に限らず世界  
中の多くの方が苦しんでいる  
現実から、新型コロナウイル  
スの特殊性を改めて感じてい  
ます。このコロナ禍の中で、  
私が所属しているインターナ  
ショナルグループの仲間達か

ら寄せられた声の一部を紹介  
します。

外国人技能実習制度を活用  
している仲間の中には、仕事  
が減り困っている方もいます。  
また、教会に行くことが出来  
なかつたために、同じ外国籍  
の数少ない仲間達と会って話  
す機会が減り不安になったと  
言っている仲間もいます。ま  
た、4ヶ月半ぶりに林神父様  
と再会した時に、どのようなに  
挨拶したら良いのか戸惑った  
仲間もいます。握手やハグの  
習慣があるため、ソーシャル  
ディスタンスに慣れることは、  
大変ですよ。

話は変わりますが、私は、  
教会内の連絡体制が整って  
いない状況の中でも、教会から  
の緊急連絡を、全員ではあり  
ませんが、より多くの仲間達  
に伝えることが出来たと思っ  
ています。それは、地域プロ  
ク連絡網に加えて、インター  
ナショナルグループや複数の  
コミュニケーションによる連絡網  
により、地域ブロックを認識  
されていない外国籍の方にも  
周知出来たからです。コミュ  
ニティーによるつながりの大  
切さを、改めて感じました。  
このコロナ禍により、仲間達  
と毎週会えなくなつたからこ  
そ、今まで以上に仲間達のこ  
とを想い、より大切な存在で  
あることを再び感じています。

近い将来、毎週、教会の仲  
間達と、笑顔で会えるよう  
になり、この記事を読み返しな  
がら想い出す日が一日も早く  
訪れることを祈っています。

**可児 祐子**

公開ミサ再開の目途がたつ  
てきたこと、感謝します。  
まだ感染に予断なく、命を  
守るため、後期高齢者だけで  
なく介護や同居で関わる方  
は、自粛を続ける方もいらっ  
しゃるかと思えます。主日の  
ミサに与る義務は引き続き免  
除だそうですから、焦らず、  
より安心して与れる日が必ず

くると希望をもっていること  
が大切ではないでしょうか。  
私事ですが、ご聖体をい  
ただけない期間どうなるこ  
とかと始めはあせりまし  
たが、「主はともかく、ミサに出  
る」ということを、ミサに出  
かけていた時よりもかえって  
意識することができ、なんと  
か平和に生活できましたこと  
は、毎日ミサを捧げていてく  
ださつた林神父様を始めとす  
る司祭方、修道者の方々の祈  
りのおかげだと思っています。  
再開に向けて準備された運  
営委員の皆様にも本当に感謝  
です。

**久出川 菊乃**

長い間ミサにもあずかれず、  
ご聖体もいただけず、ただひ  
たすら家に閉じこもらなく  
はならない時を過ごし、今ま  
で当たり前と思つていたこと  
がどんなに有難いことか、い  
かに神様からたくさんお恵み  
をいただき、守られていたの  
かを実感する日々でした。  
折から、コロナの患者さん  
に対応していたブラジル在住  
のお医者さんから、ポラン  
ティア所有の救急車が壊れ、  
とても困っている、助けてほ  
しいとのメッセージが届きま

**特別 奇稿**

**私たちが大切にすべきこと**

カトリック秋津教会主任司祭 **野口 邦大**

一九五〇年代に「三種の神器」と呼ばれ  
た「冷蔵庫」「洗濯機」「白黒テレビ」は、  
私たちの生活を大きく変える存在となりま  
したが、令和となった今は、「携帯電話」  
「薄型テレビ」「ロボット掃除機」が「三  
種の神器」と呼ばれ、世の中が、めまぐる  
しく発展しているのがわかります。しかし、  
今、その経済発展に陰りが見えてきました。  
この地球には、無限に資源があるはずも  
なく、限られた資源を大切に使いつつ、還  
元していかねばなりません。そのため、  
私たちが好き勝手にしまつと、必ずしつ  
ぺ返しを受けてしまいます。だからこそ、  
今こそ世界が一つとなり、自然と共に生き  
る道を模索していかねばならないのに、  
わずかな資源を取り合い、他者を蹴落とし  
てまで、生き残ろうとしてしまいます。  
急速な技術的進歩とは裏腹に、人として  
の心の在り方は進化していません。い  
つも愚かな選択を選び、同じ過ちを繰り返  
し、同じ人類同士で戦いを始め、お互いが  
憎しみ合う世界を作り上げているのです。  
本来であれば、人は、誰かに支えられて  
生きる事ができ、その思いを次の世代に渡  
していくよう招かれています。そして多く  
の人との出会いと支えを通して、私たちは、  
人として完成されていくのです。技術面の  
発展だけではどうしようもできない事が、  
人との出会いの中にあるのです。私たちが、  
命をいただいている事、そして、人と共に  
歩める事に感謝して、喜びをもって、日々  
を過ごしていきましょう。

した。

教会の皆さまにお手伝いを  
お願いしようにも教会には行  
けない状況でした。幸いにも  
声掛けをしてくださる方達が  
いらして、たくさん寄付をい  
ただき送金できました。

「おかげさまで救急車を買  
えたので、皆さまによりしく  
お伝えください。物質的、精  
神的にたくさんの方をいただ  
き感謝します。また一生懸命  
働けます」というメッセージ  
をいただきました。今後とも  
細々ながら援助できたらと  
思っておりますので、よろし  
くお願いいたします。

一日も早いコロナの収束を  
祈りつつ。

山口 和子

コロナによって生活全体が  
見直されました。

私にとつては ユーチューブ youtube を  
使ったのも初めてでしたが、  
関口教会のミサ、他教区のミ  
サ、そしてローマバチカンの  
ミサが見られたのは大きな喜  
びでした。

しかもご復活祭の頃は、聖  
ペトロ大聖堂はもちろん、こ  
じんまりとした聖マリア聖堂  
でもフランススコ教皇様の毎  
日のミサに与れましたし、庭  
園のルルドのマリア様の前で  
のロザリオの祈りもよかったです。

LINEグループの土曜日夜

のロザリオも連帯感が持てて、  
個人的には大変嬉しく思いま  
した。雑音があつたけどそん  
なことは問題じゃない。共同  
体の一部の意識がありました。  
ちなみに、教皇様は日本で  
言うところの後期高齢者です。  
あんなに皆のことを思つて活  
躍してくださるフランススコ  
教皇に心から感謝したいと思います。

前島 千佳子

二月頃からコロナ騒ぎが始  
まって、感染拡大を防ぐため  
にステイホームが決められ、  
人が集まり密になる教会も閉  
鎖になりました。日曜日に教  
会に行くのは生活のリズムに  
なっていました。今は気楽な  
独り暮らしのわたしに、生活  
のリズムはむしろ大切なこと  
だったのです。

朝のラジオ体操を再開しよ  
う。近くの広場で三々五々と  
集まってきた人たちと、新鮮  
な空気を吸って体操をする。

時が過ぎ、六月に教会は再  
開されました。決まりを守る  
ために、人数もミサの回数も  
制限されます。それでも早く  
皆さんの顔を見ながらミサに  
あずかれるように、ウィズコ  
ロナの時代を生きてゆく必要  
を感じています。

再開後のミサ風景



司祭を始め全員がマスク着  
用、信徒席は十分な間隔をあ  
けて着席、通路には社会的距  
離表示シールが貼られている。  
(6月28日撮影)

## 信者動静

2020年1月～7月

(個人情報のため、削除しています)